



IV-NEWS

Vol. **39**

ラオスの準国歌 チャンパーの花



写真のようにチャンパーの花（日本ではインドソケイ、一般的にはプルメリヤ）は色とりどりで美しい花ですが、白地の花びらに、花の芯が薄い黄色になっているのが国花です。この花に因んで「チャンパー・ムアン・ラオ」という歌がウッタマ・チュラマニーによって作詞・作曲されたのが、1942年。意外と古い歌ですが、当時ラオスはフランスの植民地でウッタマは自由愛国戦線で独立のために、片手に銃を、もう一方の手にはバイオリンをいつも持っていたと、お嬢さんのウタキーさんは回想します。体育教師をしながら、音楽バンドを結成して、作曲もたくさん手掛けています。1960年ごろに準国歌となりました。

♪♪チャンパーの花、香りを嗅ぐと故郷を思い出す、父が庭に植えた花、愛しい花♪♪

日本でいうなら「ふるさと」とか「赤トンボ」のような感じです。

1944年、ウッタマは、生まれ育ったビエンチャンを離れます。その翌年の1945年3月、ラオスに進駐していた日本軍によって、ラオスは、一時フランスからの独立を果たしますが、第2次世界大戦で日本が敗戦すると、再びフランスの支配下に置かれます。それから5年後の1950年、フランスからの独立を目指す自由愛国戦線に参加するため、ウッタマは再び、ビエンチャンに戻ってきます。1953年によろやくラオスは独立しますが、その後も内戦が続きました。

歌にもある、ウッタマのお父さんが植えた自宅のチャンパーの花をウッタマが再び見ることができたのは、ビエンチャンを離れてから13年後の1957年でした。

ベトナム戦争終結の1975年12月、ラオスは社会主義国家として生まれ変わり、世界中にラオス難民が移り住みました。今では「チャンパー・ムアン・ラオ」は、世界中のラオス人から愛されています。ウッタマの一番上のお嬢さんのウタキーさんが、4年ほど前に、私財をなげうって、花を紹介するために、世界中からチャンパーの花を集め、200種2000本が植わった「チャンパー・ガーデン」をビエンチャンの郊外に作りました。そこでは、色とりどりのチャンパーの花や香りを楽しみながら散歩し、ラオスの人々の憩いの場ともなっています。池に張り出した、あずま屋でラオス料理を食べることもできます。

外務省 NGO 連携無償資金協力と 山の民奨学金を組み合わせで行っている人材育成について

IV-JAPAN はこれまで培ってきた人材育成のノウハウを活かし無償資金協力とドナーの皆様からいただいたチャンパー山の民奨学金を組み合わせ、2019～2021年の3年間で主に地方のホテルやゲストハウスなどの従業員の養成研修を行っています。なぜ、ホテル従業員の養成研修なのか。現在のラオスは人の出入りが厳しく制限されていますが、観光はラオスの大きな成長産業です。ルアンパバーンの街並み、ワット・プーの幻想的な寺院跡、ジャール平原にごろごろ転がる奇妙な巨石の壺などのほかにも、魅力的な観光資源がたくさんあります。でも地方では特にそうですが泊まったホテルやゲストハウスの接客がまいちでちょっとがっかり、ということがあることは否めません。そこで観光の振興と地方の人材育成のためにこのような研修を設けました。

初年度の2019年には研修棟をビエンチャン郊外に建設し、必要な資・機材を購入。2年目の今年は3月に初代研修生18名が集まり、さあこれから研修だ！というときに新型コロナウイルスの感染拡大防止のために集まった研修生はそれぞれの村に一時帰郷となりました。幸いなことにラオスでは感染が広がらず、9月から学校も再開されるのでそれに合わせて9月7日に研修を再開しました。再集結した研修生16名全員に山の民奨学金を支給し、寮も完備して勉強に専念できる環境を整えております。11月までの3カ月間はベッドメイキングや部屋の掃除の仕方などを学びます。コーチはラオ・プラザホテルに勤めるハウスキーピング責任者。もちろん新型コロナウイルスの感染防止のための特別講習も組み込みます。また、研修生やコーチともに毎日の検温、マスクの着用、手洗いなどを徹底して関係者の安全を第一に実施いたします。12月から2月までの3カ月間は、ホテルやゲストハウスに来られたお年寄りや体が不自由な方の介助ができるように介護分野の研修を行う予定です。1期生の研修期間は半年、これを4期にわたって実施します。最大で80名の研修修了生が輩出されますが、それまでにラオスの観光業が新型コロナ感染以前の水準に戻っていることを願ってやみません。研修の様子はホームページや本IV-NEWSでも折に触れてお伝えしてまいります。



9月7日に行われた開講式後の集合写真



授業の様子



新プロジェクトマネージャーからのメッセージ (つばらや ひろゆき 浩之)

はじめまして。今年7月に就任しました。ラオスとの関りは1994年2月にラオス林野局に赴任してからです。ちょうど同じ時期に富永代表もラオスに来られ、当時は少ない日本人同士として知り合い、このたび、ご縁があり本職に就任しました。ラオスとの付き合いは長いし、愛妻もラオス人ですがラオス語はカタコト。あ、でも日没後ビアラオが入ると滑らかにラオス語で会話できるのは不思議です。ここ十数年は仕事絡みで主にビエンチャン県で植林を村人と一緒に行う傍ら、江戸川区や名古屋のロータリークラブの方々と一緒に村の小・中学校のトイレや手洗い所、井戸設置から最近では簡易水道などの施設整備を行ってきました。今回は人材育成に関係しますが、村の衛生向上と同じく将来的に大きなプラスの影響をもたらすものだと考えております。どのような出会い、気づきがあり、新たなラオスの側面を発見できるのか楽しみです。

家具製作ビデオ作り & VEDI 学生へ家具製作指導

木工事業では、春から夏にかけて、様々な活動を予定していましたが、コロナの影響で、多くの活動が中止に追い込まれました。それでも、何とかできることはやろうと、家具製作ビデオの制作と夏休み中の学生への集中家具製作トレーニングを実施しました。

家具製作ビデオは、去年と一昨年に VEDI で行った家具作りのトレーニングで学んだ技術を全国の職業教育校の教員・学生に伝えるために制作しています。スツール、洋服掛けなどの製作を通じて、木の選び方から、ほぞとほぞ穴の作り方などをラオス全国の職業教育校に発信しています。Youtube にもアップロードしていますので、ご覧になっていただければ幸いです。

※家具製作ビデオの Youtube のページ（ラオス語のみ）：

https://www.youtube.com/channel/UCxcxnP0Qn-_arTSUk2PvRQA

また、夏休み中の集中家具製作トレーニングでは、木エトレーナーのエイプ先生が、VEDI の木工科教員と学生に扉と靴箱を作りながら、日本の木工技術を教えました。VEDI の学生は、木工科教員を目指しているものの、学年によっては家具作りの実技の時間が 1 時間もないことから、このときばかりとエイプ先生の話にしっかり耳を傾け、真剣に家具作りに取り組みました。

思ったように活動が進まない部分もありますが、精巧で美しい家具作りをラオスの職業教育校に伝えていきます！！



学生を指導するエイプ先生

ナーサイトン訓練センターで初級コースが始まりました

ナーサイトンの職業訓練センターでは、8月31日から縫製・調理・理美容の初級コースが始まりました。ナーサイトンの職業訓練は、訓練生は縫製コースが16名、調理コースが17人、理美容コースが21人の計54名と、ほぼ定員となりました。これから初級3ヶ月、中級3ヶ月を通して技術を身に付け、それぞれが新しい道を行んでいくことになります。

※ビエンチャン教育局の職業訓練センターの縫製・調理・理美容の初級コースは10月から始まります。



シャンプーの練習（理美容コース）

一人の訓練生にインタビューしたので紹介します。

Q1 名前と出身、年齢を教えてください。

⇒ケオデュアンニー・クートと申します。ルアンパバーン県出身で、19歳です。

Q2 どのコースで学んでいますか？また、そのコースを選んだ理由は？

⇒調理コースで学んでいます。私のいとこがナーサイトン職業訓練センターを知っていました。このいとこが、私が料理をすることが好きなのであれば、ここで学んだら良いと紹介してくれました。

Q3 約2週間、学んでみての感想はありますか？

⇒いここから、とても良い訓練センターだと聞いていた通り、先生方も熱心で、毎日いろいろなことを学ぶことができ、楽しいです。これから、日本料理など外国の料理を学ぶことが楽しみです。

Q4 卒業後、どのように進路に就きたいですか？

⇒卒業後はビエンチャン市内のレストランで仕事を見つけようと考えています。経験を積んだ後、故郷のルアンパバーン県に戻り、小さな料理店を開きたいです。



クートさん

9月中にクートさんも含め、貧困家庭からの出身者にカノック奨学金を支給する予定になっています。ドナーの皆様のおかげで、多くの訓練生が技術を身に付け、自立することができています。引き続きのご支援に感謝いたします。

お知らせ

NHK ラジオ「マイあさ！」 10月2日（金）午前8時6分より放送
「アジア ナウ」のコーナーでラオスについて代表の富永が出演します。

【寄付者一覧（2020年4月1日～2020年8月31日）※日付順・敬称略**【チャンパー山の民奨学金 寄付者一覧】**

伊藤裕子（300,000円）

【カノック奨学金 寄付者一覧 1口12,000円】

James A Cummings（1口）、久高恵子（1口）、伊藤裕子（3口）、中田みどり（1口）
株式会社 イヨベエ芸社（3口）、八木道子（1口）、賀元澄子（1口）、土屋多賀子（1口）、
山口愛子（1口）、稲葉尚子（1口）、和田治江（1口）、三澤純子（2口）、松下俱子（1口）、
福永文代（1口）、富井伊都子（1口）、座安洋子（1口）、河口道子（1口）、利根川恵子（1口）、
岡庭史子（2口）、濱口敏行（3口）

【国際協力費・運営費 寄付者一覧 ※2,000円未満は省略させていただきます。】

伊藤裕子（9,000円）、佐復正雄（3,000円）、中田みどり（3,000円）、上田義朗（5,000円）
小林愛子（3,000円）、齋藤友美恵（2,000円）、賀元澄子（3,000円）、山口愛子（3,000円）
稲葉尚子（3,000円）、高倉昌子（10,000円）、松下俱子（3,000円）、福永文代（3,000円）
座安洋子（3,000円）、荻原理江（6,000円）、清水裕子（3,000円）、池上洋子（3,000円）
渡久地澄子（100,000円）、利根川恵子（3,000円）

【ドナー募集】

○カノック奨学金、国際協力費・運営費、チャンパー山の民奨学金、各ドナーを随時募集しています。

- ①カノック奨学金ドナー 12,000円（1口）以上
- ②国際協力費・運営費ドナー 個人：3,000円以上／団体・法人：10,000円以上
- ③チャンパー山の民奨学金 60,000円（1口）以上

○申込方法 ※銀行振込の方は事務局までご住所等詳細をお知らせください。

郵便振替：（口座番号） 00140-5-537168 （加入者名）IV-JAPAN

銀行振込：埼玉りそな銀行浦和中央支店 普通預金 口座番号：5038052

名義人：（特非）国際協力 NGO・IV-JAPAN

編集後記（日本事務局 瀧口恭平）

コロナウイルスと共存するため、世の中は大きく変わり続けていますが、「オンライン〇〇」もその一つではないでしょうか。オフラインでの対面が難しくなった状況に負けじと、人々はオンラインでつながる方法を模索し始めました。対面できないもどかしさを感じることはありますが、メールや電話とは違うつながりの登場により、新たな可能性を感じています。

8月より、日本事務局もテレワークを導入しました。コロナ対策として導入した意味合いもありますが、それ以上に、これからの新しい働き方や団体の在り方に対応できるような仕組みづくりを目指していきます。



認定・埼玉県指定 特定非営利活動法人 国際協力 NGO・IV-JAPAN

当会へのご寄付は、寄付金控除の対象になります。

日本事務局
〒330-0856 埼玉県さいたま市大宮区三橋 2-545-2-101
TEL/FAX: 048-622-8612
E-mail: iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp
<https://iv-japan.org/>

ラオス事務所
P.O. Box 7920 Vientiane, Lao PDR
TEL/FAX: +856-21-316047
E-mail: ivjapan.vte@gmail.com



アカウントービリティ
セルフチェックマーク